

環境負荷軽減に配慮した大規模野菜産地の育成

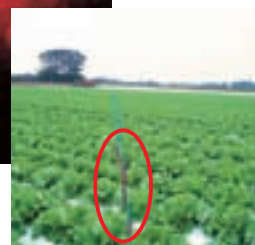
JA 北つくば結城市園芸部会は、地域ぐるみの環境保全型農業実践を目指す産地の中核を成す営農集団であり、その活動は消費者及び実需者から高い評価を受けています。しかし近年は、レタスをはじめとする秋どり露地野菜における難防除チョウ目害虫の多発、連年栽培による肥料分の過剰集積が問題となっています。

そこで普及センターでは生産者、JA、結城市と連携して環境負荷を軽減する効果的な防除体系及び土壌診断に基づく施肥体系の確立に取り組むと共に、GAP 手法の導入を推進し、産地評価の一層の向上を図っています。

● 減化学農薬防除体系の確立 ●

性フェロモン剤（コナガコンプラス+ヨトウコンH）による交信攪乱法の実施は、2 団地（計 18.9ha）で定着しています。実施区内では害虫捕虫数が激減し、効果が確認できました。

黄色防除灯の導入面積は昨年の 1ha から 2.1ha に拡大し、生産者に効果が認められてきています。これらの技術と結球開始期の重点防除（H20 茨城県普及に移す成果）を組み合わせた減化学農薬防除体系の確立を進めています。



黄色防除灯（左上）と交信攪乱フェロモン剤

平成 21 年 9 月 1 日
結城市農業改良普及センター

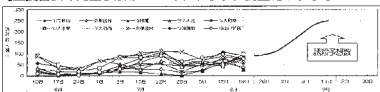
秋野菜チョウ目害虫の広域一斉防除にご協力をお願いいたします！

オオタバコガ・ハスモンヨトウ等による
秋野菜類被害の減少には

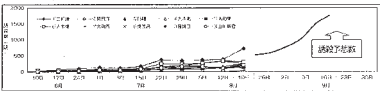
9月12日と19日（もしくは前後日）
の連続防除の効果が高いと見られます。

※1 発生ピーク前に2回の一斉農薬散布を行うことで、害虫の発生を無くし、被害の軽減が期待されます。
※2 一斉防除は効果的とは思いますが、強行ではありません。個人の生産方法や周辺環境の状況に合わせて行ってください。

【主要害虫の発生予測（フェロモントラップ調査結果より）】



オオタバコガ
オオタバコガの発生は、毎年と異なる時期に発生し、7月中旬および8月中旬に発生ピークが認められています。1世代から発生までの期間は約1ヶ月であるため、次の発生ピークは発生から1ヶ月程度遅く発生すると見られます。



ハスモンヨトウ
ハスモンヨトウの発生は、毎年と異なる時期に発生し、7月中旬および8月中旬に発生ピークが認められています。1世代から発生までの期間は約1ヶ月であるため、次の発生ピークは発生から1ヶ月程度遅く発生すると見られます。

※予想発生ピークの2週間前に当たる9月12日頃に最初の一斉防除を実施しましょう！

● チョウ目害虫発生予測に基づく広域一斉防除の啓発 ●

市内 10ヶ所にオオタバコガ・ハスモンヨトウのフェロモントラップを設置して市・JA・普及センターで週 1 回、発生状況を調査しています。発生予測結果に基づき、市内全戸の露地野菜生産者に一斉防除を呼びかけた結果、実施面積は 89ha（栽培面積の 83%）となりました。

← 一斉防除を呼びかけるパンフレット（左）とフェロモントラップ（右） →



GAP 現地監査

● 「食の安全・安心」実需者ニーズへの呼応 ●

園芸部会の主要 12 品目について GAP（生産工程管理手法）を導入するとともに、品目ごとの高度化 GAP チェックリストを策定しました。GAP の導入は、「優先して紹介できる商品」として市場から一定の評価を得ています。